

O JAPAN

ORIENTEERING JAPAN

'92 / 7

1992年〔平成4年〕7月10日発行
(毎月1回10日発行)

第9巻第7号通巻第108号

昭和63年6月24日第三種郵便物認可

シンキングスポーツ・オリエンテーリング



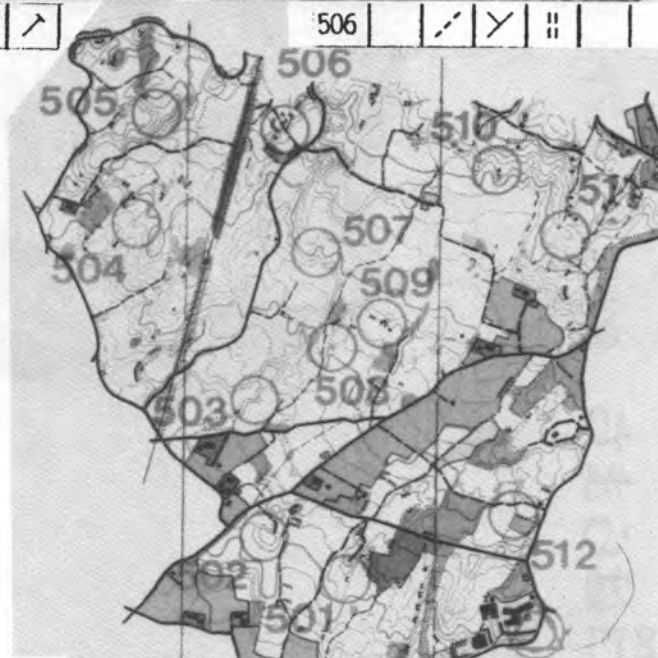
--	--	--	--	--	--



505					
-----	--	--	--	--	--



506					
-----	--	--	--	--	--



503					
-----	--	--	--	--	--



502					
-----	--	--	--	--	--



512					
-----	--	--	--	--	--

ORIENTEERING JAPAN

O-JAPAN もくじ

92/7月号・No.108

● ORIENTEERING and OLIMPICS

IOF 会長 Heinz Tschudin.....4-5

● イベントリポート

「京都ミニOL大会」

「第46回太田市

オリエンテーリング大会」

「美又温泉まつり協賛

オリエンテーリング大会」

「第43回奈良県民体育大会

オリエンテーリング大会」

「第10回名阪戦」

財間 定義, 岡本 忠佳6-7

● パーマネントコースりぼ〜と=

木佐木輝雄, 窪田 宏明,

大町 宏志8-10

● “情報あれこれ” “編集部より”11-12

□

[今月の表紙]

A P O C = FUJI = のテライン

岐阜県OL協会の

上林 弘敏氏による

撮影とアレンジ

[今月の地図]

● 6月7日, 福島県原町市で開

催された, 第18回FTVファ

ミリー・オリエンテーリング

大会=全ポスト図=2ページ

(コース一覧表等は付録に掲載)

□

ストリーマー

景気の後退.....

バルセロナ・オリンピックの開幕を控え、マスコミを賑わせ、衛星放送関連の製品などのPRが連日盛んに行われている。しかし、世の中には不景気風が吹いて、街を行く人々の表情もいまひとつ冴えないと感じるのは私だけであろうか。勤務先の関係業界が、このリセッションの影響をモロに受けているし、週末にO-JAPANの仕事にかかわっていても、購読者数や大会数の減少、ということはOL界全体の衰退の兆候では？と考えたりする。これも景気後退とは無関係ではなさそうだ。オリエンティアは、O-JAPANの購読者数の比率で見ると圧倒的に都市部に集中している。都会の近郊でOLが楽しめたのは一昔前のことで、今では高い交通費を払って、週末泊まりがけで、遠くまで足を運ばなければ、良好なテラインでのOLは楽しめない。競技OL人口の大勢を占める学生さんにも、アルバイト口に限りが出てきたり、企業の新規採用手控えなど、厳しい時代に入ったかも知れない。就職しても、企業そのものが今遅しく前進しているところなどほとんど無く、そんな時、若い新入社員が、“単なる”OLごときに熱中できるわけがない。

この不況の中で、OLはいかに生き残るか？自問して見る。学連組織などがあって学生への拡がりにはIOF加盟国の中でも、随一かも知れないわが国である。普及の対象として、その学生のタマゴ、小学生の年代にそしてその母親たちにもう一度焦点を合わせる時が来たような気がする。都会に比較的近い森林公園のなとこで、毎週でも毎月でも、オリエンテーリング教室や小競技会(徒歩Oではなく、ペアか個人で競技性のあるもの)を根気よく開くことである。パーマネント・コースに代表される“トリムO”(常々私は大会時の“トリムOLの部”という呼称は適当ではないと思っている)は、婦人層と、走ることが「危険」と考えている中高年層に、工夫をして努力をしてアピールすべきである。若い人たちの柔軟な思考も大切にすべきである。アイデアをいただいて、われわれは身を粉にして働く。できますか？

三洲流人

ORIENTEERING and OLIMPICS

オリエンテーリング と オリンピック

Heinz Tschudin

IOF-President

[ハインツ・チューディン=IOF会長]

オリエンテーリングがオリンピック・スポーツになるのはいつのことだろう？この質問がずっと投げかけられてきた。オリエンテーリングはフット、スキーとも同様に、国際オリンピック委員会（IOC）によってスポーツの仲間として認知されていることは、まさにそのとおりである——1949年以来スキーOが冬季スポーツとして、また1977年からはフットOが夏季のスポーツとしてである。IOF自身が設立したのは1961年であるが、オリエンテーリングに関するIOCとの最初の交渉は、遠く1944年にさかのぼるのである。

私が10年前にIOFの副会長に選ばれて以来も、IOCに相対してIOFを代表してやってきた。

1982年われわれは、スキーOをカルガリー冬季五輪にデモンストレーション・スポーツとして採り入れようと試みた。われわれは主催者と徹底的な折衝をし、有力な専門家に頼んで多色刷りのパンフレットを印刷し、強気に働きかけた。1983年には3人の代表がカルガリーに飛び、そこではカナダ・オリンピック委員会の会長が活発な援助をしてくれたのである。しかし、われわれがかなり早い接触の時に明らかにたな上げにされていた同じ理由で、最終段階で無残にも見捨てられたのである。すなわち、“あなた方はどのくらいのお金を稼いでくれますか？”

われわれは今日どこに位置しているのだろうか？この稿は以下に関しての状況を要約したものである。

* IOF 総会の決定事項

* 承認についてのIOCの条件

* IOF 理事会による活動

* 承認のための申し入れ

* 1991年シドニーにおけるGAISF

(オリンピック・ゲームと国際スポ

ーツ連盟) 総会以後の状況

* リレハメル——1994年

* 長野——1998年

* その他の活動

1. IOF 総会の決定事項

リエージュ（ベルギー）1982年：2時間きっかりの討議で、1988年のカルガリーとソウルにおいてオリエンテーリングをデモンストレーション・スポーツとすべく申し込むよう理事会に要望するに至った。

メイヌース（アイルランド）1984年：さらに長い時間をかけた議論の末、次のような立場をとることが合意された。“IOFは国際的なスポーツの状況を見守るとともに各種の国際スポーツ機構との良好な関係を保っていく。IOFはこのスポーツの発展に集中的に力を注ぎ、明らかに特別に望みある流れの環境が生じたとき、再びオリンピック問題を探り上げるであろう。すなわち、例えばもし、フィンランドやスウェーデンの町が五輪の開催地となった場合がそうであろう。”

レウ（デンマーク）1986年：五輪プログラムへのスキーOの導入に関して3つの動議が上程された。理事会がスキーOに関してはすでに正式な申込みをしているということで、3つの動議すべてが取り下げられた。

トルボレ（イタリア）1988年：長期計画“2000年に向けてのIOF”は、オリエ

バルセロナ・オリンピックも目前に迫り、日本ではちょうどOLのオフ・シーズンとあってオリエンティアの関心も高まっているとき、IOF（国際オリエンテーリング連盟）発行の広報誌、“ORIENTEERING WORLD”の最新号に、会長のハインツ・チューディン氏によって稿が寄せられているので紹介したい。

(編集部)

ンテーリングの五輪への導入を長期的目標のひとつとしてとらえ、小さな個々の段階を経て達成されるべきであると主張している。

2. 承認についてのIOCの条件

——冬季大会：3大陸からの25か国

——夏季大会：4大陸からの75か国

(これは1991年までは3大陸、50か国であった)

言い換えれば、五輪への仲間入りのための申請が審理される以前でも、公開宣伝することは確実に可能であるということである。ということ例えば、3つの大陸の最小数の加盟国でもって、規則に則った高レベルの男・女種目をもった国内スキーO選手権を開くことである。ただそこでは、IOCプログラム委員によるより詳しい申請書の考察があるのみである。新種目はプログラム委員会によっては単に提案の受け入れ、そしてIOCによって承認が行なわれるはずである。

3. IOF 理事会による活動

理事会はこの問題を、1982年以後の数々の会議のほとんどで採り上げてきた。これは総会の決定に従ってきたもので、特に1988年のソウルとカルガリー、1992年のバルセロナとアルベールビル、そして1994年のリレハメルの大会に公開競技

としてのオリエンテーリングの実施の可能性を追求してきたのである。これまで、その達成は成らなかった。そして、IOCは1992年からは、公開競技という概念を捨て去ってしまった。

1985年、IOFとIOC会長との最初の書簡交換があった。

私自身も携わってきたし、今なおスイスからの2人のIOC委員、すなわちレイモンド・ガフナー氏(1991年にデニス・オズワルド氏と交代)＝国際スキー連盟会長＝、およびマルク・ホドラー氏＝オリンピック冬季競技連盟会長＝とともに、IOCプログラム委員会との接触を求めている。1回は1989年、スウェーデンにおける世界選手権大会(WOC)の折に同国のIOC実行メンバーであるグンナール・エリクソン氏との会合もあった。1989年12月に予定したIOC会長、J・A・サラマンチ氏に申し入れた会合は、同氏が直前になってキャンセルを余儀なくされ、実現しなかった。

マルク・ホドラー氏はスキーOの世界選手権およびワールドカップ・レースへの永久招待を受けている。しかしながら彼はポンタルリエ(本年度のスキーO世界選手権開催地＝本誌92/4、通巻1822ページ参照)に来ることができなかった。他にもまた多くの交渉があった。

4. 承認のための申し入れ

1986年、理事会はスキーOを冬季五輪に含めるようにとの最初の正式な申し入れを行なった。回答は2年後(われわれの催促によって、ようやく!)に来たが、否定的なものであった。その理由は、“あなた方の申し入れの内容では、オリンピック憲章に定められた基準に達していない...”(3大陸、25か国)。

われわれは1989年に改めて申し入れを行なった。いまだに回答はないが、もし強要して見ても1988年と同じようなものであろうと考えている。

5. 1991年シドニーにおける GAISF総会以後の状況

レンナルト・レヴィン氏(IOF事務局長)は、“ORIENTEERING WORLD”誌-4/91で、すでにこの総会についての詳細な報告を行なっている。そして、マルク・ホドラー氏のスピーチの中で、将来の冬季五輪で“間近で待たれている”競技のひとつとして、スキーOに言及していることを記録に止めておいた。

このスピーチの後のマルク・ホドラー氏との会合は、状況にいくらかの光りを投げかけた。彼は、厳密に言えば承認の条件は満たされていることを、きわめて明確にしたのである。加えて彼は、一旦条件に合致すれば、IOCプログラム委員会はその考課過程でより以上の厳しい条件を適用するであろうと言う。それは—このスポーツはメディアにアピールするだけの人気があるのか?

—競技人口の増加という明らかな兆候があるか?

—男・女種目とも同等の高レベルに達しているか?

—青少年のための普及計画が適切に立てられているか?

6. リレハメル——1994年

ノルウェー・オリエンテーリング連盟の会長マグネ・ハーゲン氏、スウェーデン・スキー連盟およびIOFは、リレハメルにおける冬季大会に、スキーOを少なくともエキジビジョン競技に入れようとして、あらゆる方法を試みた。私は彼らの献身的な努力に感謝の意を表する。残念ながら、それらの努力は報われなかった。

7. 長野——1998年

理事会はスキーO委員会の議長グナール・ヤンソン氏の出席を得て、この春のヘルシンキでの会合でこの問題を討議

した。そこでは、オリンピック・プログラムへの導入は1998年の長野より2002年を目指した方がより現実的な目論みであるはず、との見方をした。これには2つの大きな理由がある。IOCは1998年のプログラムをきわめて早期に決定するであろうから、その年までに残された時間は非常に少ない。われわれは、おそらくこの年にはすでに25か国を確保しているだろうが、しかし、3大陸には及んでいない。加えて、IOCプログラム委員会の考課過程は、数年とは言わないまでもせめて1年は要する。更に、長野はこの世界の反対側に位置するし、IOFは経済的な義務を負うことになり、“金銭的価値”という言葉に合わせていくにはきびしいことになるであろう。

8. その他の活動

理事会は、そのタスマニアにおける会議で基調論文を採択した。スキーO委員会はそのベースとなるプログラム草案を申し出た。これは総会期間中の会議にかけられ、理事会に示されるであろう。

これは明確に組み立てられた、冬季五輪へのルートを示した“ロードマップ”をわれわれに与えるに違いない。

そして夏季五輪は? 現在の状況では、モンスター大会への顕著な傾向があり、明らかに問題外である。しかし、もし五輪がより質実な何かを持つものに戻り、地理的には広がった場合、フット・オリエンテーリングにもチャンスが来るかも知れない。このように、メイヌースの総会での決定、そしてその長期計画によれば、もし特別に有利な流れの状況が生じたならば、効果的に行動する用意があるうえ、国際的なスポーツ・シーンを間近に目で追うことになるだろう。

[IOF 発行

“ORIENTEERING WORLD” 92/2 頁

訳・田口 肇]

京都ミニO.L大会

- 1992年6月7日
- 京都市 千人塚

《日寺》 “初夏”突入の第一日曜日に開催（当初、この日、関西サイクルスポーツセンターO.L.Cが“女人高野の里PC大会”を予定されていたが、それは9/6に延期）。しかし、当初は日時未定という関西学連定例戦が、この日に重なってしまった。

《戸斤》 京都大学に近いバス停“銀閣寺道”から程近い「大文字」への山道を20分余り登ると、足利幕府滅亡期の激戦地「千人塚」の大墓標。名にし負う古跡に隣接して、かの「大文字」も描かれている（私は初めてこの地に立つ機会に恵まれた。そして、ここがこの日のレース発着地であった）。

市民の森として親しまれているようで、この日も私たちオリエンティアよりもはるかに多数のハイカーが、ここの登山に訪れていた。

《人》 スタッフ9人・参加者67人。

スタッフ中の紅一点“山本さん”は『絆』の新編集長。前任の辻村充子さんの姿はこの日見えなかったが、勤務校のワングル部員が数人（母校・京大の新人も10人程度）参加されていた。

第46回

大田市

オリエンテーリング大会

- 1992年6月14日
- 島根県 大田市

《日寺》

1. 薄曇り、初夏としては絶好のスポーツ日和。
2. 来月の島根県スポレク祭を控え、その種目参加を期待し、本年も大田市当局は60万円の事業補助金を計上。内、「オリエン」には3万円の追加補助が令達された。

《戸斤》

1. この日の会場校は、中学野球の地区代表候補“一番手”との評判もあって、練習登校の野球部員+応援の学校長（市中体連会長でもある）や保護者の熱い視線は、当日、専ら“野球”に集中！

大田市OCは、「市中体連&地域体協」などと同様、市体協の加盟団体。とは言え「オリエン」は、母体の日体協・県体協とは別縁の仲。⇒表面は“お愛想”であ

っても、本音は非協力で可となる……（地域で、本音での協力関係を築くためには、中央&県段階で「体協加盟の実現」をと、私は改めて痛感）。

2. 今回のテラインは、市教育委員会の予算措置で、昨年PCコントロールが整備された所。ただし、肝心のマップは12年前のままであるのは、惜しい（しかし、県OA普及部長は、このPCの設置管理者である大田市教育委員会の「新委員」を拝命された。この方にマップ改定の予算を付けるよう、私は要請しておきました）。

《人》

1. 全国スポレク祭O inしまね & 全日本O inしまねの年。その前段、普及の好機となる今年の大田市O大会の地元（久手町）在住の大田市OC会長が、事前折衝で地元の「後援」取り付けに成功。なのに、結果は久手町の参加者はゼロ？
2. かくて、当日の参加者=22人。

美又温泉まつり協賛

オリエンテーリング大会

- 1992年6月21日
- 島根県 金城町

《日寺》 初夏恒例の温泉まつりが好天に恵まれ、史上最大と思える盛況。駐車場を溢れ、路上駐車行列が普段より格段に多かった感じ。

《戸斤》 お肌が忽ちスベスベになる名湯が、オール無料開放。この日入湯した人々は、口々に「アァ！いい湯だ！」を連発しながら、一度ならず複数回の入湯を楽しむ人が多かった。

広島〜浜田間の高速道路によって、「近い！1時間半で来た」と、広島O.L.Cの村上 且さんが喜んでおられた。

《人》 温泉まつりの来客も多数、協賛オリエンも参加108人と3ヶケタ突破の賑いで、成功。温泉まつりの盛り上げを買われて、オリエンの参加料は無料+景品サービス+ゴール後の美人湯も楽しめました。



**第43回
奈良県民体育大会
オリエンテーリング大会**

●1992年7月5日
●奈良県 奈良市

《日寺》 7月第一日曜日が恒例となった感じ。この日生徒さん方は期末テスト未了の学校もあったようですが、すでに終わっていた三郷中学校は、オリエン部・石田先生以下19人の参加が目立った。

第43年目の“県民体育大会”、その“オリエンテーリングの部”と名づけられ、主催は県教委+県体協（賞状は他種目共通仕様で、主催行政サイドの提供で見事な出来。年々新調される参加バッジは、全員支給+大会経費5万円程度の補助と聞く）。

《戸斤》 6年前、西日本大会兼奈良国際大会時に作成されたマップ「奈良公園」。途中、幾度も鹿の群れに出会うのは宮島と同様。間近に奈良女子大があるが、その新人たちも降雨を厭わず熱心に参加しておられた。

《人》 梅雨前線を低気圧通過の予報通り、降雨のなか55人参加。

以上の4大会 財 間 定 義

第10回 名阪戦

●1992年6月21日
●兵庫県 西宮市

大会当日は、梅雨の合間というべきか、さわやかな天気となった。

名古屋大学と大阪大学の対抗戦は応援にも力が入り、「手とり足とり腰とりチーム」名大OBが、1時間39分34秒で参加16チーム中の優勝をさらった。

一般個人参加者数は60人であり、年配の人たちもマイペースでコースを回っておられた。

大会終了後、近くの神呪寺(Kannoji)で「お大師さん」があると聞いたので、急坂を登ってお参りした。タコ焼き屋も出ており、お堂の前では山伏が祈禱をしており、錫杖で背中と頭を撫でてもらった。展望台からの眺めはすばらしく、宝塚、伊丹、豊中市、大阪市が一望できた。名所、旧跡を訪ねることもOL活動を楽しむコツかなと察した次第です。

岡本忠佳



オリエンテーリング地図印刷

社内報 団体・サークルの機関紙 記念誌
PR誌 学校新聞 句集 歌集 詩集

あ 有限会社 **あしび印刷**

〒220 横浜市西区西戸部町3-298
神奈川県教育会館前
☎045-231-5970(代)

パーマネントコース りぼ〜と

□1992年4月15日(水)

長野県 No.2 ~木 92-6~

「アルプス展望」

【距離】 10km

【ポスト数】 10本

JR中央本線「松本」駅下車。駅前のバスターミナルから「アルプス公園」行きのバスがあるが、本数は午前中2本と少ないのでタクシーを利用の方が早い。スタート地点は「城山公園」で、松本駅からタクシーで約10分、料金は1000円ぐらい。

4月上旬に松本市教委に電話したところ、「PCの廃止を申請中。MAPはすべて処分しました」という無情の返事。処分というのは焼却でもしたのであろうか。そのうちポストも撤去されるだろうと思い、急いで4月15日にアタックすることにした。

当日、城山公園は桜が満開で、日曜でもないのに花見の宴で大にぎわい。富田氏よりいただいたコピーMAPを頼りに歩くことにした。スタート地点に行ったが、すでに掲示板は撤去されたのか宴会の人ごみの中から見つからず。

公園を出て放光寺を過ぎ舗装道路を北上する。

MAPは1:25000で精度は90%。コースは山50%、畑50%で、標高差は100mぐらい。コースの状態は⑧の前後を除けば5段階法で3と4の間ぐらい。

ポストは10本とも健在(1992年4月15日現在)だが、①⑦はサビがひどくボロボロ。⑥はマスターが2mmずれている。⑥はT字路から東へ70m行った右側の畑の奥で道からは見難い。⑤と⑥の間には石油缶で作ったポストGがあり、かつてはこのコースが野外活動などで活用された名残をしのばせている。⑧へ行く小径は溝に沿って丘の間を進むが、途中から小径は消えて、伐採した木が丘の間を埋めているので通行不能。私は右側

の丘を越えて⑧へ到達した。⑩は遊歩道から10mほど上った所。遊歩道と中継所の間で、夏秋は道からは見えないはず。神社の50m手前があるNBS(長野放送)の中継所の金網沿いにL字形に進むとSBSの中継所の10m下に⑩がある。

コースの状態は⑧を除けば悪くないし眺望もよい。途中には青年の家もあるので、整備すれば有効に活用できると思うのだが、「廃止」とは残念である。

私が最後の挑戦者であろうか。

(松本市教委体育課 ☎0263-34-3000)

□1992年5月7日(木)

長野県 No.14 ~木92-7~

「木曾駒高原」

【距離】 10km

【ポスト数】 10本 O-MAP

JR中央本線「木曾福島」駅下車。列車を降りると、「木曾路はすべて山の中である」の名言どおり、山々がすぐ近くまで左右から迫ってくる。

駅前より「大原」行きのバスで「大原公民館」下車。バスは25分ぐらいで、500円。駅発のバス時刻は(8:40, 10:05, 12:35)。駅を出て左の方にタクシープールがあるのでタクシーを利用の方が早い。タクシーの時は「福島会館」の中の「教育委員会」に寄ってくれるように頼むこと。駅から「大原公民館」までタクシー代は2620円。公民館発は(15:30, 16:06, 17:05)であるが、下車した時に確かめておくこと。

MAPとマスターは「福島会館」内の「教育委員会」にある。駅から「福島会館」までは歩いて15分。「大原公民館」にMAPはないので注意。

マスターの掲示板は公民館前にあるが、現在中は空っぽである。

MAPは1:20000のO-MAPで、精度は95%。最近の舗装道路は記入されていない。

コースは、山80%、田畑30%であるが、山の半分は舗装道路である。標高差は200mぐらい。コースの整備は良好。

ポストは10本とも新品と取り替えている。①はテニスコート横の小道を150mほど進むと小川にぶつかるので、小川に沿って右へ50m行くとある。⑤はマスターの位置が2mmずれている。トイレから舗装道路を120m下ると立っている。⑥はヘアピンカーブを2回横切って30m行った左側。⑦は道から10m左へ入った雑木林の中。⑧→⑨は平行した2本の道があるが、南の方の太い破線の道がよい。⑩は神社の参道から10mほど左へ入った広場の隅に隠れている。

ぜひ行って欲しいコースの一つである。MAPを余分に買ったので分譲可。

当日は駅を出た時から小雨で最後まで止まず、⑤のあたりでは濃霧に包まれてギョッとした。

今年の春、木曾福島町教委の教育長が自らPC担当者と共にコースを歩いて整備されたことに対して深く感謝したい。

(木曾福島町教育委員会

☎02642-2-2251)

リポーター:

〒185 東京都国分寺市京町3-5-6-104

木佐木 輝雄

□1992年5月3日(祝)

静岡県 No.5, 6 ~窪92-1~

「富士愛蔵」

「富士丸火」

【距離】 9km, 6km

【ポスト数】 8本, 8本

FUJI OL MAP, 調査・1992年3月, SCALE=1:15000, まさに出来立てのほやほや。しかし、APOCのパンフレットにこれらのPCが紹介されていなかったのは残念。発行:富士市教育委員会(TEL:0545-51-0123 内線・体育課) 地図取扱所及びスタート地点:富士市立少年自然の家 TEL:0545-35-1697

【交通】1980年発行のOL-PC 一覧表には「東海道本線富士駅からバスで吉原中央駅へ、吉原中央駅から十里日本ランド行きバスで「丸火公園入口」下車・徒歩40分」とある。とにかく少年自然の家の前まで行く公共の交通機関は無い。大型の時刻表によると、JR「富士」駅発8:40のサファリパーク経由日本ランドスキー場行きが1便だけである。これが「丸火公園入口」を通るかは要確認。帰りも午後以前記スキー場発15:17の1便しか無いので、バスを降りた時すぐに確認しておくとい。

富士市のバスは主として「吉原中央」駅を中心に発着している。「吉原中央」というので大型の時刻表を見たが、JR「新富士」「富士」「吉原」駅および岳南鉄道の各駅以外にそんなものは無いし、どのあたりに在るのかも分からない。これが今流に言えば、ごくごく小さなバスセンターのことだということはそこへ行って初めて実感した。場所は富士市中央二丁目に在る。発着は4番線まであり、窓で開かれた待合室もある。そこは東海道本線の北側でJRの富士駅、吉原駅へは、それぞれ直線距離3km程度の旧吉原市の中心部である。かつては東海道五十三次の宿場町として栄えたが、鉄道を敬遠して時流に乗り遅れ、富士市と合併した後も、過去の栄光の名残をいまだにこの古典的とも思われる駅名に止めているのであろうか。JR「富士」駅からは經由地は異なるが終着が「吉原中央」駅となっているバスは結構出ている。しかし、どれが一番所要時間が短いかは未確認。JR「吉原」駅からも出ているが便数は少ない。また、JR「新富士」駅と「富士」駅との間は路線バスもあるが、歩いても知れている。

「吉原中央」駅から「丸火自然公園入口」を通るバスが出ているかは未確認。途中の「大富士ゴルフ場入口」までは比較的便がある。ここから西に進み次の十字路を右折して北に歩いて1時間足らずで少年自然の家に着く。ゆるい上りの連続である。

レールマニアならばJR「吉原」駅の北側から出ている岳南鉄道に乗ってみて

は？ 可愛い赤色の流線型の電車が走っている。一つ次の「吉原本町」駅下車(¥130)、徒歩で西へ約600mで「吉原中央」駅に着く。そんな面倒なことはいやだと言う人は好きな所までタクシーでどうぞ。以上のことは、国土地理院1992.4.1発行の「入山瀬」1:25000地図が役に立つ。また、交通機関についての問い合わせ先は、バス=富士急行 TEL:0555-22-7100 電車=岳南鉄道 TEL:0545-53-5111。

さて、APOC初日オープンAに参加。H35Aと同じMAP、6.5km、白の領域が多く、それだけルート選択の自由度も大きかったが、実力が伴わずツボりにツボった後、それでも何とか完走。表彰式でのエリートの成績に感心しながら約1時間歩いて少年自然の家へ。入口に2枚のマスターを見つけて一安心。というのは、「たのしい野外教室3 オリエンテーリング」のPC一覧表には、この2コースは入っていなかったからである。受付でMAP(¥50)。マスターも事務室のものから写す方が楽。事務室の方に交通機関について聞いたところ、直通のものは無いとのこと。約3km下の「大富士ゴルフ場入口」まではバス便が割合に多くあるとの情報を得た。

2つのコースはそれぞれ8ポストで、共通ポストは無い。全部のポストを一筆書きで回りたかったが、スタートが15時と遅く、もしバスが無ければJR「吉原」駅まで10km以上も歩かねばならず、結局「富士丸火」の全部と「富士愛鷹」のポスト*1,*2,*7,*8の合わせて12ポストを回った。順序は1,*1,2,*2,3,*7,4,7,5,6,*8,8。

APOCを意識してかMAPは今年の3月に調査されたものであり、ポスト(標準サイズ)も新しく、管理も良好であった。コースは丸火自然公園内に配置されている。はるか昔に噴出した富士の溶岩の上にできた植生の間に溶岩が露出しており、その溶岩洞穴群の中にあるポスト7がこのコースのハイライトである。⑧の付近は万葉の道になっており、植物名が木に表示してあるので、興味のある人はゆっくり回ってみるとよい。④

の付近は植林中で、伐採された木の枝が道を覆っていて分岐点が分かりにくく、⑤の付近で道がやや複雑になっているくらいで、まずは易しいコースであり、マップも良くできている。丸火コースはほとんどが樹林の中で、残念ながら富士山は見えない。愛鷹コースは途中で富士山の見えるところがある。オープンAを走っている時に愛鷹コースの⑤を見つけた。

少年自然の家へのゴールは17:20、すぐに「大富士ゴルフ場入口」へ。十字路で後から自然の家の事務室の方が追いついて来られた。この朝、JR吉原駅から自然の家まで走って上り、APOCのスタートを手伝い、これから沼津まで帰られるという。バス停に着いてすぐに17:55発のバスが少し遅れてやって来た。次は19時まで便が無かったので本当に運が良かった。事務室の方はバスに乗らずJRの駅まで走って帰られたが、頼もしい限りである。

バスの行き先は「吉原中央」駅でJRのどの駅にも行かないという。とにかくその中央駅なる所へ行くことにした(¥340)。東名高速を北から南へ横切るあたりから渋滞となり、中央駅着は18:30頃。中央駅というイメージにほど近いバス停にびっくり。JR「吉原」駅行きは出た後で、19:30まで無い。JR「富士」駅行きは經由地がいろいろあり、もたもたしているうちに出してしまった。18時を過ぎると極端に便数が減るのには驚いた。仕方なく東へ約600m歩いて岳南鉄道の「吉原本町」駅へ。単線の小さな片線式プラットホームが一つの、本町という名に似つかぬ貧弱な駅にまたびっくり。17時以降は無人駅となる。しかし、JR「吉原」駅での上り、下りの接続が掲示されており、バスより確実である。車内でJRとの連絡切符が買える。

【その他の情報】

少年自然の家から丸火コースのポスト①へ行く途中、道の右手に富士市立青年自然の家と丸火自然館がある。その先はグリーンキャンプ場となっている。

また、少年自然の家の南方には、その管理になる数キロにわたる沢登りコース

があり、経験に応じて幾つかのコースが用意されている。小学生のトレーニングにも使われるという。

APOCの会場となった大淵第二小学校の近くにバス停「岩倉」があり、行き先は「吉原中央」駅となっていた。ポスト記入済みMAPがあれば、ここを起点として回ることもできる。

□1992年5月5日(祝)

東京都 No. 8, 9, 10

～窪 92-2～

「表高尾」

「南高尾」

「奥高尾」

[距離] 8, 7, 12 km

[ポスト数] 12, 10, 10本

O-MAP

※前回レポート: O-J 91/7

スタート地点: 京王線「高尾山口」駅前。マップ販売: 京王線「高尾山口」駅売店。売店には「オリエンテーリング地図」の掲示が無くなっていた。現在売り切れ中とのこと。ポスト: 更新されており、記号も更新されたポストあり。

JR「高尾」駅から小仏峠行きのバスで「日影」下車。日影林道から一丁平に登り、紅葉台を経て6号路を下った。ポストは旧位置にあるが、更新され記号も変更になったポストもあった。

MAPは売り切れになっている。いつ頃補充されるか未定。各コース地図のほか、全ポスト入り、および白地図等の再販予定をO-JAPANで発表してほしい。

リポーター:

〒191 東京都日野市多摩平5-2-43

窪田 宏明



□1992年5月31日(日)
東京都(未公認)～大町92-1～
「永山丘陵」
[距離] 不明
[ポスト数] 10本

O-MAP

この「永山丘陵」のコースは未公認のもので、昨年の体育の日、青梅市レクリエーション大会OLの部で、多摩OLのK氏の誘いで初めて運営らしきものに携わった折、偶然そのコースの存在を知った。MAPは、河辺の青梅市総合体育館内にある青梅市教育委員会社会体育課で扱っている。マスターは風の子太陽の子広場の真ん中あたりに置かれてある。ポストの位置や番号が少し見づらい。

①はフィールドアスレチックの中。すぐ近くに「まむしに注意」の立て看板がある。②は休憩所の南東。③は休憩所の西側。④は休憩所の南で、数メートル小径を下ったところ。マスターの位置は少し北にずれている。⑤は休憩所の南側。⑥は通行可能な岩崖の少し上。⑦は橋を北に下りた小径上でマスターは南西にずれている。⑧は池の東側。マスターでは特にこの⑧の位置が見にくいので注意が必要。問題は⑨で、去年たまたま目に入ったポストなのに結局見つからない。自分に間違いがなければ引っこ抜かれたのか? 永山グラウンドの北東の小道にあるはずなのに……。⑩は広場へ降りる階段の途中左手。

「永山丘陵」の調査は東大OLKによるものだが、早大OCのテラインガイドによれば、多摩OL調査の「青梅坂」の南部にあたる。このコースは100キロコンペの対象ではないが、北東の部分や西端などは全くポストが置かれておらず、この地図を手にしたクロスカントリーを試みるのも一法と思われる。

リポーター:

〒190 東京都立川市砂川町2-16-26

亀之池荘1FC号

大町 宏志



情報あれこれ

■ 北信越オリエンテーリングクラブ 連絡協議会の活動について

北信越OL連絡協が結成されて9か月近く経ちましたが、その後の活動状況や役員体制について、ご報告させていただきます。

そもそも、当連絡協は北信越地区内に存在する社会人クラブや学生クラブ間の情報交換の場を提供する目的で結成されたわけですが、機関紙を発行したり各クラブが企画するOL大会や練習会に加盟クラブが参加するほか、連絡協独自の行事を開催することにより、各クラブ間の交流を深め、OLの発展に寄与できればと考えています。

結成後からこれまでの主な活動について振り返ってみますと、

- H3. 10.12 北信越連絡協設立総会(富山県小矢部市)
 10.13 設立記念大会(富山県小矢部市「蟹谷」) 15名参加
 10.23 連絡協ニュース創刊号発行
 12.15 第1回連絡協練習会(石川県金沢市「念仏坂」) 26名参加
 12.18 連絡協ニュース第1号発行

- H4. 3.8 第2回連絡協練習会(石川県小松市「一口生水」) 47名参加
 3.20 連絡協ニュース第2号発行

5.16 平成4年度連絡協総会(富山県小矢部市)
 5.17 第3回連絡協練習会(富山県小矢部市「蟹谷」) 21名参加
 となっています。この他にも地区内で開催された金沢大会や新潟大会等にも多数参加しています。

現在のところ、連絡協には9クラブ加盟しており、去る5月の総会において役員が次のとおり決定しました。(任期は平成6年3月までです。)

会長 森田 輝雄(金沢OLC) 〒921 金沢市御幸町9-11 ☎0762-43-8125
 副会長 美谷島 孝(長野OLC) 藤田 弘(小松OLC) 中根 裕次(富山OLK)

事務局長 山口 敏夫(富山OLK)
 〒939-27 富山県婦負郡婦中町宮ヶ島141-5 ☎0764-66-3288

会計 岡田 洋一(富山OLK)
 会計監査 小林 正明(YKKOLC) 林 芳隆(金沢大OLC)
 広報担当 宮内 久光(富山OLK)

今後は、連絡協内でのOL活動はもとより、地区内の未加盟OLクラブにも積極的に働きかけるとともに、他の地区における連絡協議会とも交流を持ちたいと思っています。

文責 富山OLK 山口 敏夫

■ 秩父・武甲山 散策道を 通行禁止

去る6月29日の秩父市議会全員連絡会の席上、秩父セメント側から説明のあったところによると、武甲山の北面で岩盤が滑り落ちる兆候のあることが明らかになった。滑落があると約20万立方メートルの岩石が「みみず沢」に落ち、落石などの心配もあるという。このため、周辺を立入禁止区域とし、ハイキング・コースなどには、市が通行禁止の立て看板を設置したりして警戒している。

(6月30日、新聞各紙埼玉版より)



このことにより、埼玉県OL協会では、当分の間、秩父のパーマネント・コース(3コース)を閉鎖する措置をとることとした。

また、日本学生オリエンテーリング連盟の管理するO-MAP『武甲山』の販売を中止する旨の連絡も入った。

オリエンティア諸氏の自粛ご協力をお願いします。

【情報提供:

高村 卓 = 埼玉県OL協会
 愛甲 智弘 = 日本学生OL連盟】

■ セバレート式 チェックカード 増刷しました

昨年、本誌で作成したセバレート式チェックカードは、小競技会や練習会等で盛んにご利用いただきましたお蔭で、ここ1~2か月在庫ゼロとなっていました。

ご要望にお応えして、このほど増刷いたしましたのでどうぞ編集部までご注文ください。

☎045-891-7004 FAX 045-891-2500

■ 港南オリエンテーリングクラブ 新役員のお知らせ

本年度新役員を次のとおり決定いたしましたのでお知らせいたします。

会長: 三好 良子 副会長: 阿天坊 裕 事務局: 高柳 宣幸
 会計: 綿貫 英子 会計監査: 志田 雅子

今後とも、よろしく願い申し上げます。(前会長: 田口 肇_u)

情報あれこれ

■ 東海地区連絡協だより

6月6日(土)本年度2回目の会合が持たれましたので、その結果を中心にお知らせします。

会合では、まず例によって、今後の大会の予定が紹介されました。その後、中日東海ブロックOL大会について討議しました。まず平成5年は4月11日に静岡(静大工学部主管)で開催予定であり、平成6年以降は基本的には岐阜・愛知・三重の順に実施予定で調整を進める。今年4月の大会の反省を基に、今後の中日東海ブロックのあり方について討議した。開催するだけで精一杯の地区(県)もあり、毎年の大会のレベルアップもままならない状態である。今後良い大会を全国のオリエンティアに継続的に提供していくため、もう少し討議が必要である。

続いて今年8月22,23日に予定している夏期合宿について、トレーニングの担当クラブを決めた。また、参加費など内容を審議。加盟クラブ外の方も遠慮なく参加してください。

恒例のクラブカップリレーは今年で8回目。主管のつるまいOLCより案が出され、討議した。11月15日、尾張旭市森林公園で開催することで了承。ゼッケンは連絡協で用意し、回収し再使用していくことで、参加者の労力負担を軽減することにした。また40才以上で構成されるチームでトップのチームを特別表彰する(シニア表彰)ことで、楽しみが増えた。

連絡協に再び、半田工高OLCが加盟、全部で25クラブとなった。

■東海地区OLC連絡協議会の連絡先は

〒456 名古屋市緑区大高町砂畑9-8 土屋 晴彦(会長) ☎052-621-3609
文責 三河OLC 小野 盛光

編集部より

◆暑中お見舞い申し上げます。

◆北海道を除いて、7・8月はオリエンテーリング大会も一休み。9月から先の秋の大会予定も、この号のカレンダー掲載分ではほぼ固まったのでしょうか。やはり県・市民大会や地域クラブ主催大会が少ないような気がします。◆O-JAPANの購読更新の受付も一段落しましたが、こちらも過去9年間で初めて、下降線を示しました。例年、6月に入ってから続々とお申し込みをいただくのですが、今年は特に7月になって、さっぱりです。それで、4・5月号などかなり大量に残部があります。それ以前のものも含めて、バックナンバーの在庫を次号で紹介しますので、ぜひ、お申し込みください。◆オリンピック開幕の月にちょうど"ORIENTEERING WORLD"の最新号(6月号)が届き、会長の記事が目についたので、たまたま記事枯れのときでもあったので、本号発行を少し遅らせて、無理に掲載した。IOF会長・ハインツ・チューディン氏については、古くからの読者の方々に限られるが、本誌№14、1984年11月号をご参照願いたい。

—<流人>—

■ 中四九オリエンテーリングクラブ
連絡例会について(ご案内)

過般の第18回全日本(岐阜大会)の折りに、先進の近畿・東海に準じたブロック内のクラブ・協会有志の連絡例会が発足しました。その際に、第2回例会を9月の「吉備路大会」の折りにと予定しました。このほど、吉備路大会の要項も確定しました。＝オリエンテーリングカレンダー参照＝

つきましては、ブロック例会を次のように開催しますので、なにとぞ宜しく、お願いいたします。

記

1. 会議名: 第2回“中国・四国・九州”ブロック例会
2. 日時: '92. 9. 6(日曜日) 正午ごろ～(1時間以内)
3. 場所: 大会更衣室に掲示
4. 参集者: “中国四国九州ブロック”内のオリエンテーリング組織(クラブ・協会)。有志個人の方も歓迎。会費不要。
“中四九”エリアの方々に、口コミ等でも周知にご協力が頂けたら幸甚!
5. 協議題: 10月以降～1年間のエリア内の《オリエンテーリング行事の開催情報》&提言等。お有りの方は、8月末までに、
☎08548-2-1405(FAXも同じ番号) ざいま幹事へ……

“中四九”連絡会幹事: 財間 定義

O-JAPAN 92/7
№108 1992. 7. 10発行

発行/O-JAPAN

発行人/田口 昭子

〒233 横浜市港南区日野南7-9-5

TEL. 045-891-7004

FAX. 045-891-2500

郵便振替口座/横浜7- 46870

(加入者名) O-JAPAN 編集部

購読料 年間4月～3月 ¥3,000

(高校生以下) ¥1,800

1部あたり頒布価格 ¥250

編集責任者/田口 肇

Chief Editor: Hajime Taguchi

Editorial Address:

7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku

Yokohama, 233 Japan